Vol.2　会員からの投稿

【最近の日本に思う】

PE0095　松岡　寛晃

西川 PE さんからバトンを引き継いた松岡です。さて、引き受けさせて頂いたものの、どのようなことを書いたらよいものか．．．連日仕事に追われてあまり物事を考えることない日々を過ごし、新聞も購読していない私の情報源といえば、出勤前の僅かな時間に見るテレビのニュースと深夜に帰宅後、メールチェックのついでに見るインターネットのニュースくらいだ。

その程度の情報源ながら、このところ本当に事件や不祥事の報道が目に付くようになった。以前からこんなにも問題山積みの国だったのだろうかと考えてみた。

ここ 10 年あまりで IT 技術は飛躍的な進歩を遂げている。私がスイスに留学していた 1993 年頃は電子メールさえまだ技術者や研究者などしか使っていなかったと思う。そんな当時、ある日アメリカで撮影された動画がローザンヌの研究室にあるワークステーションに MOSAIC と言うブラウザを通して映し出された。機械工学専攻で IT 技術に疎かったこともあるが、その時受けた衝撃は今でも鮮明に覚えている。あれから 15 年、今では電子メールやインターネットは当たり前。大量の情報がすごいスピードで飛び交い、必要な情報はクリックひとつで簡単に入手できる夢のように便利な時代になった。

しかしながら、留学当時には日本は安全な国だと欧州の友人たちに自慢していたことなど考えられないくらい倫理観や常識を疑うような事件や不祥事が後を絶たない時代にもなった。世論はコンプライアンスや倫理に対する意識が高まってきていることは確かなのだが、大量の報道がさまざまなメディアを通して迅速に伝達されるがために、受け取る側にとってマイナス方向に働くこともあるように感じる。最近、立て続けに起きている、硫化水素自殺や同様な無差別傷害事件などはその典型例であろう。大量の情報を伝達する技術やインフラは整った。だが情報を受け取る側の成熟が追いついて行かないままでは、安易で短絡的な連鎖反応が一気に広まる可能性もある。最近の日本は、そんな状況に陥りかけているように感じる。

最近よく出張で訪れる上海の街を歩きながら中国の勢いを肌で感じ、この先我々の小さな島国はどこへ向かっていくのだろうかと時折不安を感じる。このような時こそ原点に立ち返ることが必要なのかもしれない。IT インフラが進歩し、容易にバーチャル体験できる時代になっても、ものごとに直に触れ感じなければ得られないものはたくさんある。海外に出てみれば日本の技術は高く信頼されている。それは誇るべきことで、まだまだ日本も捨てたものじゃない。先人たちの築いてきた技術を、前向きに愚直に、日本人ならでは、のやり方で未来につなげて行けたらと思う。

なんだか取り留めのない内容になってしまったが、今回はこのあたりで。次回は自薦を挟んで引田 PE さんにお願いしたいと思います。